

茅野市博物館協議会様

次の事項について、理由を添えて諮問します。

茅野市八ヶ岳総合博物館の展示の更新及び茅野市における科学教育の振興についての基本計画の策定について

平成 24 年 7 月 20 日

茅野市八ヶ岳総合博物館館長 若宮 崇令

(理由)

平成 23 年 5 月 19 日に茅野市教育委員会から茅野市博物館協議会専門部会に対し、

- 1 茅野市八ヶ岳総合博物館の展示は、今後いかにあるべきか。
- 2 今後の茅野市における科学教育の振興はいかにあるべきか。

が諮問がされた。茅野市博物館協議会専門部会は、展示替え専門部会、科学教育検討専門部会の 2 つにわかれ、それぞれ 8 回以上にわたり検討、協議が重ねられ、最初の「八ヶ岳総合博物館の展示は今後いかにあるべきか」という諮問については、開館から 20 余年が経過し、研究の進展や環境の変化等によって展示が現状にそぐわなくなっている点について、主に現在の自然分野の展示をどのように替えていくかについて検討がなされた。

「今後の茅野市における科学教育の振興はいかにあるべきか」という観点からも、子どもの理科離れなどの現状を打開するためや、新しい学習指導要領において、科学的な見方や考え方を育成するための観察・実験の重要性が示されたことなどを受け、茅野市八ヶ岳総合博物館（以下、総合博物館）でも人づくりの観点から実験や観察などを通して、自然科学の面白さを体験できるような施策や方法、大学等とのネットワークのあり方などの検討がなされた。

この結果は、平成 24 年 2 月 8 日に茅野市教育委員会に答申された。答申では、これまでの八ヶ岳総合博物館は、昭和 58 年 3 月に策定された「茅野市総合博物館基本構想」（以下、基本構想）に示された理念を実行するための活動が十分に行われてきたとは言いがたいものがあるとされ、その原因の一つとして、自然科学に造詣の深い学芸員が十分に配置されてこなかったことを指摘された。さらに、基本構想で示された実物資料の収集や基礎的研

究なども行われてこなかった現状も指摘された。

今後は当時の基本構想に示された理念を継承、発展させ、時代に適合した展示構想と、新たに課題となってきた市民への理科・科学の普及について、公民協働の精神に基いた総合博物館の運営、企画を行うことが提案された。そして、総合博物館を茅野市の科学教育の振興の中心的役割を担う施設として充実、発展させることでの対応も提案された。

加えて、市民の生涯学習活動を支え、風土を愛するための博物館として専門的な職員としての学芸員を確保、維持し、ヒトとヒト、ヒトとモノ、ヒトと風土を繋いでいくことや、改築、増設を含む八ヶ岳総合博物館の施設、組織の充実が強く望まれ、この答申を踏まえて、公民協働のために職員の確保や財政的な裏付けを含めた総合博物館における基本計画が改めて策定されることが必要とされた。

以上のような答申を踏まえつつ、茅野市八ヶ岳総合博物館の展示の更新及び茅野市における科学教育の振興についての基本計画の策定に向けては、特に、以下の事項を中心にご審議をお願いしたい。

第一に、展示の更新と科学教育の振興の検討は、別々には考えず、総合的にご議論をお願いしたい。

第二に、展示の更新については、新データ、新知見の反映にとどまらず、今後の総合博物館の展示のあり方を、今までの展示方法に拘泥せずご議論をお願いしたい。しかしながら、答申に示された案の全てを実現することは、スペースの問題から、現実には難しい。また、答申では検討の不足している分野も指摘されていることやいまだ陳腐化してない展示についても言及をお願いしたい。

第三に、科学教育の振興については、必要な施設や設備はもちろん、総合博物館が担う事業内容やその運営方法を具体的にご議論願いたい。

第四に、この計画策定の上でも、博物館を運営していく上でも、市民の参加については、必要不可欠なことである。計画策定の際には、ワークショップや公聴会などが想定される。また、運営段階では、市民の学芸業務への継続的な参加が期待されている。

以上の点について、自由闊達なご議論を通じ、実行可能な基本計画をご提示いただきたいので、茅野市博物館協議会設置条例第 2 条に基づき標記の諮問を行うものである。検討期間は、概ね 1 年以内としたい。